



# ぽっぽ屋



輸送サービス労組 東京支部

2023.3.11  
No. 066

## 東北新幹線 東京駅にてスロープ板を設置したまま起動開始！

現場社員が一体となって安全で安心な東京駅新幹線ホームを実現させよう！！ NO.3

### 各職場からの声 (NO.2からの続き)

- ◆ 会社からは、列車防護スイッチ（列防）を扱うことは教育されている。
- ◆ スロープ板をあの場合（発車後直ぐ）で弾いても自分に飛んでこないことは自信があった。
- ◆ スロープ板の構造はある程度知っている。
- ◆ TESSEI の指令に直ぐ連絡（携帯している無線）したがつながらなかった。
- ◆ 構造と、危険予知を考え、列車防護よりもスロープ板撤去のほうが先になってしまった。
- ◆ 当日列車の遅れがあり、ドア開扉が発車時間僅少であり、乗車に時間がかかっていたのは把握していた。
- ◆ 悪いことが重なってこうなったと感じる。（遅れ・確認不足など）
- ◆ 咄嗟に体が動いたのは、お客さまにけがをさせないため、この行動によって自分がけがをするぐらいなら良いと思ったから。

清掃担当

### 今回の事象を受けての東京支部の見解と提言

今回の事象の原因を掘り下げた結果、危険を認めた場合には躊躇せず列車を止めると指導はされているものの、結果として「列車を止めることができなかった」ことが最大の問題であり、その背景には教育体制の不備、経験不足、作業の煩雑化、業務の効率化、要員不足など、会社の施策やマネジメントの問題があると分析しました。

グループ会社を含め、私たち一人ひとりが危険を認めたらいつでも躊躇することなく列車を止められるように定期的に訓練を行い、徹底した教育を行うことが必要です。そのため東京支部は以下の三点を提言します。

- ① いのちを守るために、全ての社員（乗務員・駅員・グループ会社社員）に対して、危険・異変を感じたら列車を止めることを徹底し、定期的に訓練と徹底した教育を行う
- ② 「本来すべき担当業務」を落ち着いて集中し作業できるよう、対策の見直しと適切な要員を配置する
- ③ 現場で携わる全ての人コミュニケーションを図れる職場環境の改善



**東京支部は同種事象の再発防止に向け、安全議論を継続して行なっていきます！！**